



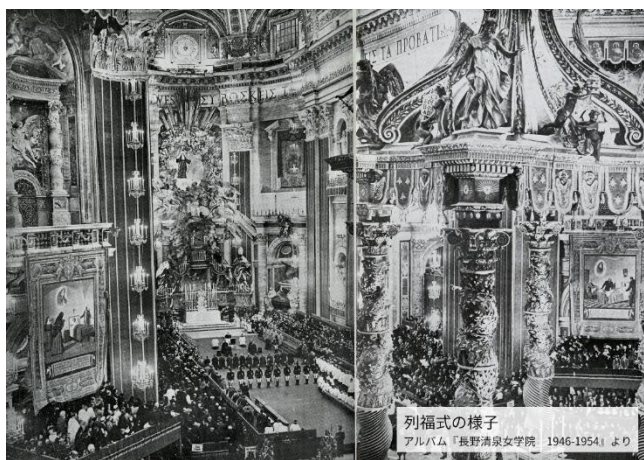
## 史料室だより

清泉女子大学史料室 Seisen University Archives

### No.25

## 聖ラファエラ・マリアの 列福式と創立記念日

～「聖ラファエラ・マリアの生涯」展～



清泉女子大学では毎年5月18日を創立記念日としてお祝いしています。姉妹校でも同様にこの日が特別な日として祝われています。というのも、本学が創立された1950年の2年後、すなわち1952年5月18日に本学の設立母体である聖心侍女修道会の創立者、ラファエラ・マリアが福者に列せられたからです。ラファエラ・マリアはその25年後の1977年1月13日、さらに最高位の聖人に列せられることとなるのですが、清泉ではラファエラ・マリアが列福された1952年5月18日を、それ以後毎年特別な記念日としてお祝いすることになったのです。列福式はバチカン市国のサン・ピエトロ大聖堂で執り行われ、日本からはシスター エルネスティナ・ラマリョとシスター カルメン・ウスタラが参列しました。その時の式の様子的一端を、残された資料から図版とともに少しご紹介します。

\*\*\*

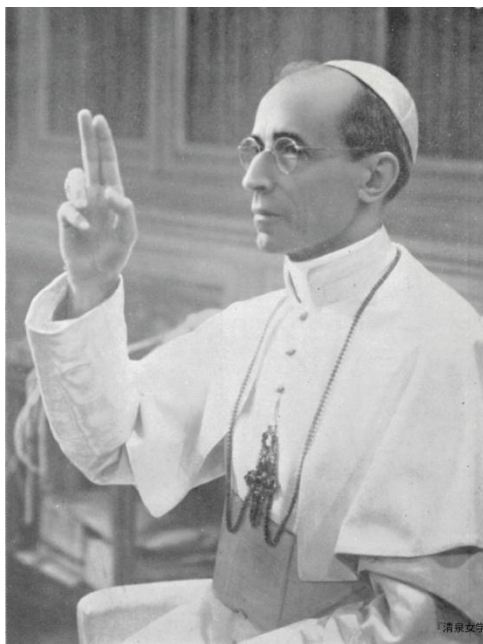
大聖堂に集まった全世界のキリスト教代表者の前で、教皇ピオ12世は、「ラファエラ・マリアが今後福者の称号を持って呼ばれ、その遺骸と遺物はキリスト教者から公に崇敬をうけることができ、その像は後光をもって触ることが許される」「教会はこ

の称号を、教皇の印しによって宣言する」と宣言されました。ベールで被われていた「ベルニーニの栄光台（サン・ピエトロ大聖堂のアプシス（後陣）に位置するブロンズの司教座）」に一齐に明りが付き、大聖堂のパイプオルガンがテ・デウム（Te Deum）を奏で、聖歌隊と大群衆が唱和しました。その後、「福者ラファエラ・マリア我らのために祈り給え」と福者に対する最初の祈願が歌われました。



ベルニーニの栄光台（後陣）とブロンズの天蓋  
中央の黄色く光っている「栄光」の装飾部分に聖ラファエラ・マリアの肖像画が掲げられました  
石橋真澄「ベルニーニ：バロック美術の巨星」（吉川弘文館、2010年）より

同日午後6時から教皇ピオ12世による聖体降福式がおこなわれ、列福式は滞りなく全て終わりました。  
（大船清泉女学院『清泉』昭和49年より）



教皇ピオ12世  
清泉女学院 創立10年記念 冊子より

さて、2026年度、本学では学事の関係から5月18日ではなく、5月21日に創立記念日のミサが挙行されますが、史料室では、この記念すべき日に合わせ、5月7日から27日まで、ラファエラ・マリアの生涯とその根底に流れる「建学の精神」を辿るパネル展を開催しています。

会場では、ラファエラゆかりの地の風景を捉えた写真資料に加え、彼女の生涯をやさしい言葉と絵で描いた絵本『ラファエラ』のエピソードなども紹介しています。

生誕の地：スペイン ペドロ・アバド

修道生活の舞台：スペイン コルドバ

マドリッド

終焉の地：イタリア ローマ

聖ラファエラ・マリア像：バチカン市国

学生の皆様、ならびに教職員の皆様には、本展示を通して創立者の生涯に触れ、建学の精神をより深く理解する一助としていただけますと幸いです。

※「列福」とは、カトリックにおいて、徳ある行為によりその生涯が聖性なものであったことが認められた者に「聖人」に次ぐ「福者」の地位が与えられることをいいます。ラファエラは没後 27 年目の 1952 年 5 月 18 日に「福者」となり、さらに 1977 年 1 月 23 日に「聖人」となりました。

聖ラファエラ・マリアの生涯をまとめたパネル  
今年1月のパネル展示から大幅にバージョンアップしています



ラファエラについて記された書籍もご紹介！

### 【列福式こぼれ話①】

今回のパネル展に飾っている聖ラファエラ・マリアが天国に昇る様子を描いた肖像画ですが、これは現在ローマのヴェンテ・セッテブレ修道院聖堂に飾られています。ラファエラの列福式の時にバチカンのサン・ピエトロ大聖堂に飾られたものです。

列福式を記録した写真の中にその姿を確認することができます。カテドラ・ペトリ（ペテロの司教座）の上に聖霊を取り囲む天使たちが配された「栄光（グローリア）」と呼ばれる装飾部分にラファエラの肖像画が掲げられました。



列福式の時にサン・ピエトロ大聖堂に飾られたラファエラの肖像画

### 【列福式こぼれ話②】

1951年、日米安全保障条約が調印されたことを受け、米国が占領していた土地建物のうち、使用されていない建物を日本国政府に返還しなければならなくなりました。

清泉は横須賀の土地建物の払い下げを求めましたが、大金が必要となり、シスターたちは頭を悩ませていたそうです。ちょうどその翌年の1952年はローマの総本部で世界各地に散在する聖心侍女修道会のシスターたちの代表が集まる総会、ラファエラの列福式が開催される年でした。日本から列福式に参列したシスター エルネスティナ・ラマリョとシスター カルメン・ウスタラは、その足でスペインを訪問し、時の将軍に謁見を求め、横須賀清泉の窮状を訴え、その援助を懇願、積極的な援助を約束してもらいました。

こうして横須賀の清泉の土地建物の国庫払下げが完了し、清泉女子大学は横須賀の地で大学を存続させることができました。

（大船清泉女学院『清泉』昭和49年より）

\*\*\*

「史料室だより」は清泉女子大学公式Instagramにて連載中です。